



2

【ひろばの風】

「幸福（福祉）とは何か」についての一考察

聖カタリナ大学 教授
谷 隆一郎

3

【Campus News】

平成30年度カタリナキャンプ（保育学科）を開催
保育学科学生が「かざはや踏んだら走る市」に協力
本学学生が第68回西日本学生体操選手権大会で個人総合8位（種目別ボール5位）
本学学生がボウリング世界ユース選手権の日本代表に選出
ボランティアセンター前期講演会の実施

4

【Campus News】

伊予市との連携に関する協定を締結
健康スポーツ学科教員 大城卓也 助教が第53回人類動態学会全国大会の優秀発表賞を受賞
2018年度 ボランティアフェスタを開催

4

【Campus News】

第69回四国地区大学総合体育大会（四国インカレ）が開催される
松山まつり「野球拳おどり」で準優勝、チャリティゲーム大会を開催
本学の学生・教員がボランティア活動に参加
本学サッカー部の丹澤選手がサッカー北マリアナ諸島代表に選出

カタリナ ひろば

Vol.31 No.1
2018.11

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



5

【ESSAY】

回り道(?)を突き進んだ結果
人間健康福祉学部
福田 哲也

6

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部 水口 啓吾ゼミ

7

【ようこそ就職課へ】

就職課長
鈴木 勝

8

【クラブ紹介】

学生赤十字奉仕団（同好会）
看護学科 村中 理紗【ご寄付のお願い】
教育振興募金のご案内

「幸福（福祉）とは何か」についての一考察 —キリスト教の古典に学ぶ—

聖カタリナ大学 教授 谷 隆一郎

聖カタリナ大学の「人間健康福祉学部」という名称は、人間、健康そして福祉という、それぞれに意味深い言葉から成り立っている。それらはごく普通の、よく用いられる言葉である。しかし、改めて「それは何なのか」と真の意味が問われるなら、誰も容易には答えられない。実際、「人間とは何か」とは、最も素朴でかつ難しい問題として、古来、哲学（愛智の道行き）にあってさまざまな仕方で吟味され探究されてきた。また「健康」ということにしても、単に身体だけでなく、「こころ・魂と身体」との全体として「人間の健康（健やかさ）とは何か」と問われるなら、相当に難しい問題となる。

そこで拙稿においては、「われわれ人間の健やかさ」に深く関わる「幸福（福祉）」という言葉をめぐる、その基本的な意味をいささか考察してみよう。

「すべての人は幸福を求める」とは、古代ギリシア哲学にあってキリスト教教父（教会の師父）の伝統にあって基本の命題であった。そのことについてたとえばアウグスティヌス（354～430、西方・ラテン教父最大の人、西欧の教師と称えられる）は、次のように述べている。

確かに、「すべての人は幸福を求めている」であろう。しかし、「幸福とは何か」、あるいはむしろ「何が幸福なのか」ということについて



書斎のアウグスティヌス、ボッティチェッリ、フィレンツェ、15世紀

は、人それぞれに異なる捉え方をしている。それゆえ人は、それぞれ別のものを「幸福」とみなし、「その当のもの」を目的として追い求めているに過ぎない。しかも多くの場合、人は、「自分を真実には幸福にさせないもの」を「幸福にさせるもの」と思い誤って、それを欲求しさまざまなことを振り行っている。その結果、自分では「幸福を追い求めている」と思いながら、その実、かえって「惨めな者、不幸な者」となってしまう（『告白』第10巻第20章～第23章）。

これはなかなか厳しい言葉であり、今日もわれわれ自身に突きつけられてくると思われる。そこで、その意味するところをアウグスティヌスに即してさらに少し窺っておきたい。

われわれがたとえば「何らかの権力、富、快楽、名声など」をいたずらに、そして悪しき仕方で欲し求めるなら、自由・意志のそうした転倒した（悪しき）働きはわれわれ自身にいわば跳ね返って、自らのこころ・魂に「悪しきかたち」（悪徳）を刻み込んでしまうであろう。言い換えれば、そこに現れ出てくるのは、「善の欠如したかたち」である。従って、そのようにして「善そのもの（＝神）」から離れ、自らの頑なな「自我の砦」に閉じこもってしまうとき、人は真の幸福から離れ、不幸な者となってしまうであろう。

ともあれ、われわれが「真に幸福で在ること」は、単に「あれこれの外なる事物を—富であれ快楽、名声のようなもので

あれ—獲得するか否か」によるのではあるまい。むしろ根本的には、それらの対象を「善く（つまり正しく）意志し択ぶか」、それとも「悪しく意志し択ぶか」ということが、われわれの幸福であるか否かを決めてくるということになる。

聖書や教父の伝統におけるこうした把握は、常識的な「ものの見方」を多分に越えたものであろう。ただそれは、われわれがややもすれば見過ごしてしまっていることを、改めて想起し見つめ直すことを促してくると思われる。

ところで、同様の文脈であるが、東方・ギリシア教父の後期の代表者、証聖者マクシモス（580頃～662、伝統の集大成者）は、幸福というものの真相について次のように洞察している。

神の正義は、この世で人間的なものを評価して富や健康や他の評判高いもので自分を飾っている人々を、価値ある者とはみなさなかった。かえって、魂の諸々の善きもの（徳）を尊び、神的で永遠的な善きものに与る人々こそ、幸福な者とされる。……たとえ身体や外的なものに属するさまざまな「一見」善きものが取り去られても、諸々の徳（アレテー）さえ残るならば、幸福は欠けることなく存続する。……しかし他方、すべて悪しき人は、たとえ地上のいわゆる善きものをすべて所有したとしても、諸々の徳を欠いているので、憐れむべき悲惨な者なのである。（『難問集—東方教父の伝統の精華』）

この文章は、「ルカによる福音書」第16章に記された「傲る富者と貧しいラザロの物語」を、霊的かつ象徴的に解釈したものである。ラザロは生前、極めて貧しく富者の門前で佇むばかりであった。しかし死後、アブラハムの懷（受肉した神、キリストの象徴）に導き入れられた。他方、富者もまた死んで葬られたが、黄泉で苦悩のうちに目を挙げると、遥かにアブラハムとその懷にいるラザロを見たという。……



冥府に降るキリスト、イスタンブール（コンスタンティノポリス）、コーラ修道院、14世紀

証聖者マクシモスは上記の引用文にあるように、「この世と黄泉」とを分けた物語的語り口をいわば透過して、その象徴的な意味を説き明かしている。すなわち、かつての聖書の言葉は、時と処を超えて、すべてわれわれの「今、ここなる生のかたち」に関わるものとして、霊的に解釈されているのだ。その際、具体的なすべてのわざ、すべてのことは、真に現存するもの、善きものとしての徳に関与しうるか否かという、ただ一つの規範から照らし出され、評価し直されている。しかもそれは、必ずしも単に死後の話ではなく、まさにこの生にあって、さまざまな人間的なわざ・行為のうちに見出されるべき真相として捉えられていると考えられよう。

平成30年度カタリナキャンプ（保育学科）を開催

4月14日（土）、聖カタリナ大学短期大学部保育学科ではカタリナキャンプを開催しました。

カタリナキャンプは、新入生が保育学科での学生生活や学習内容について理解を深め、学生同士や教員との親睦を深めるために、毎年実施されている伝統行事です。2年生は、この日のために、春休み前から各クラスで集まり、発表の企画から始まり、開催までの間試行錯誤しながら練習を重ねてきました。

当日は、1・2年生全員が参加し、楽しいクラス発表や昼食で懇親を深め、午後からはレクリエーションを行い有意義な一日を過ごすことができました。



保育学科学生が「かざはや踏んだら走る市」に協力

5月27日（日）、北条「文化の森公園」芝生広場で開催された「かざはや踏んだら走る市」の各イベントの運営に保育学科の学生が協力しました。

学生は北条児童センターのイベントブースで「絵本の読み聞かせ」と「カプラブロックの積み木」の企画・運営を行い、多くの親子連れの参加者の皆様に楽しい時間を過ごしていただきました。当日は、保育学科の授業で学んだ内容を活かすことができ、学生にとっても良い機会となりました。



本学学生が第68回西日本学生体操選手権大会で個人総合8位（種目別ボール5位）

5月22日（火）～24日（木）、福岡で開催された第68回西日本学生体操選手権大会（新体操の部）において芳之内乃亜さん（健康スポーツ学科1年）が総合8位、種目別ボールでは見事5位に入賞しました。今大会の順位により、8月16日（木）～19日（日）に群馬県高崎アリーナで開催された第70回全日本学生新体操選手権大会に出場しました。

芳之内さんは、昨年のえひめ国体にも出場し優秀な成績をおさめています。



本学学生がボウリング世界ユース選手権の日本代表に選出

泉宗心音さん（健康スポーツ学科1年）がボウリング世界ユース選手権の日本代表に選出されました。

泉さんは日本代表チームの一員として7月24日（火）からアメリカ・ミシガン州で開催された世界ユース選手権に出場しました。

年	主な戦績（国際大会）
2017年	第19回アジアユース選手権大会 オールイベント第1位、シングルス戦第3位、4人チーム戦第3位
2016年	第24回アジア選手権大会 トリオ戦優勝
2015年	第16回アジアスクール選手権大会 マスターズ戦第3位、4人チーム戦第3位
2014年	第13回世界ユース選手権大会 オールイベント第1位、4人チーム戦優勝、シングルス戦準優勝、ダブルス戦準優勝
2014年	第15回アジアスクール選手権大会 4人チーム戦第3位
年	主な戦績（国内大会）
2017年	第72回えひめ国体 少年女子個人戦第1位、団体戦第2位
2017年	第41回全日本高校選手権大会 第6位
2017年	第54回西日本選手権大会 選手権者決定戦第3位、2人チーム戦優勝、4人チーム戦準優勝
2017年	NHK杯第51回全日本選抜選手権大会 第4位
2017年	第55回全日本選手権大会 マスターズ戦第4位、個人総合第2位、2人チーム戦優勝
2016年	第45回全国都道府県対抗選手権大会 選手権者決定戦第4位、混合2人チーム戦準優勝、混合4人チーム戦第5位
2016年	第71回岩手国体 少年女子個人戦第3位
2016年	第53回西日本選手権大会 選手権者決定戦第4位、2人チーム戦準優勝、4人チーム戦準優勝

ボランティアセンター前期講演会の実施

7月9日（月）から14日（土）まで「ボランティアからはじまるストーリー」をテーマにしたボランティアウィークの開催に先立ち、5月12日（土）にボランティア講演会が行われました。本学の職員で、卒業生でもある佐藤友紀さんから「東日本大震災から7年2ヵ月～忘れないで東北を～」という演題で、ご自身のストーリーを映像で交えながらお話いただきました。

震災から7年2ヵ月。3.11前後になると、テレビや新聞の報道で特集が放送されますが、日々の忙しさに追われ、思い出すことが少なくなっているように感じるとの佐藤さんの話は東北の人々に思いをはせ、何か自分にできることはないかを考えさせられる時間となりました。また、松山市の4大学合同のボランティアグループ「4-Rings」の紹介や学生消防団の募集の話などがあり、地域に根差した活動の大切さを感じさせられました。



伊予市との連携に関する協定を締結

7月3日（火）、伊予市役所で「聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部と伊予市との連携に関する協定」の調印式が開催されました。

調印式では、武智邦典 伊予市長とホビノ・サンミゲル学長が協定書を交わしました。

この連携協定は、伊予市と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部が持つ知的・人的・物的資源を相互活用することで、魅力あるまちづくり及び地域産業の振興を目指すことを目的としています。

今後は伊予市と連携協力し、大学内の知的財産や人材等を積極的に活用することにより、様々な活動に取り組んで参ります。

【伊予市との連携事項】

- ① 社会福祉の充実・向上に関すること
- ② 地域振興及び活性化に関すること
- ③ 健康・スポーツ活動の推進に関すること
- ④ 子育て支援の充実・向上に関すること
- ⑤ その他連携・協力が必要な事項に関すること



健康スポーツ学科教員 大城卓也 助教が第53回人類動態学会全国大会の優秀発表賞を受賞

6月23日（土）、24日（日）、埼玉医科大学毛呂山キャンパスで開催された第53回人類動態学会全国大会にて、健康スポーツ学科教員の大城卓也 助教が優秀発表賞を受賞しました。

学会当日には「教員のレジリエンス向上支援に向けたチェックリストの開発」というタイトルで研究発表を行いました。

中学校、高等学校の教員の働きすぎに注目し、それを改善するためのチェックリストを開発するという内容でした。

2018年度 ボランティアフェスタを開催

ボランティアウィーク最終日の7月14日（土）ボランティアフェスタが開催されました。

今年はボランティア協議会の方々も参加し、プロの支援者（要約筆記・ホワイトボード作成・車椅子介助など）として来場者と関わっていただき、さらに災害ボランティア募集に回りながら、ボランティアフェスタを盛り上げてくださいました。また、恒例の施設や地域の方々のブース、バザー、フリーマーケット、そして今回初のかがかあそび工房、ピアノサロンコンサート、竹取物語のスタンプラリーなど多くの方々にご参加いただき、募金していただくことができました。

ボランティアウィーク募金額10万円は、震災復興事業「がんばれ!!みやぎっ子」とまごころ銀行（西日本豪雨災害支援）に送金しました。ご協力ありがとうございました。



第69回四国地区大学総合体育大会（四国インカレ）が開催される

第69回四国地区大学総合体育大会（四国インカレ）が、6・7月に香川県で開催されました。本学からは10種目に約110名が参加しました。7月6日（金）～8日（日）に開催予定の弓道競技、硬式庭球競技、ソフトテニス競技は、西日本豪雨により残念ながら中止となりましたが、出場した7競技は、日頃の練習の成果を發揮し、全力でプレーをしました。



松山まつり「野球拳おどり」で準優勝、チャリティゲーム大会を開催

8月11日（土）の松山まつり「野球拳おどり～団体連の部～（出場33チーム約2440人）」で、聖カタリナ学園連が準優勝を果たしました。

また、松山まつりをより楽しんでいただくため、8月10日（金）・11日（土）・12日（日）には、聖カタリナ学園（聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部・聖カタリナ学園高等学校）としてチャリティゲーム大会を開催し、親子連れの方を始め多くの方に楽しんでいただきました。

ご来場いただき募金にご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

当日、チャリティゲームの収益と募金箱へいただいた募金額8万円は、平成30年7月豪雨で被災された方の復興支援に貢献できるよう寄附しました。



本学の学生・教員がボランティア活動に参加

8月3日（金）、本学の学生・教員が西日本豪雨で被災した宇和島市でボランティアに参加しました。

松山市社会福祉協議会（本学と災害時におけるボランティア活動に関する協定を締結）の下で、松山市からバスで宇和島市へ向かい、約5時間のボランティア活動（家財運び、清掃、土砂の運搬等）を行いました。

本学サッカー部の丹澤選手がサッカー北マリアナ諸島代表に選出

本学サッカー部所属の丹澤 龍選手（人間社会学科2年）が、7月17日（火）～22日（日）に神奈川県箱根で開催された代表選考会に参加し、北マリアナ諸島代表チームの代表選手に選出されました。

9月2日（日）～7日（金）にモンゴルで開催された東アジアE-1サッカー選手権（EAFF E-1 サッカー選手権2019 ラウンド1 モンゴル）に出場しました。



回り道(?)を突き進んだ結果

人間健康福祉学部 福田 哲也

「先生はなぜそのテーマを勉強しようと思ったのですか」担当科目の何度目かの授業の際、ある学生からこのような質問を受けました。

私は、平成30年4月より聖カタリナ大学に着任した福田哲也と申します。専門領域は社会心理学と感情心理学で、その中でも人の感情がコミュニケーションにおいて果たす役割や感情が対人関係に及ぼす影響を研究テーマとしています。こうした研究領域ということもあり、大学ではコミュニケーションと心理学に関する授業を担当しています。私は毎回授業の最後に、学生に感想や質問をコメントペーパーに書いてもらっているのですが、何度目かの授業の際、冒頭の質問を受けました。そして自分が心理学を学ぶことを決めたきっかけを振り返る機会がありました。

私が心理学を学ぼうと決めたのは高校生のころでした。ですが、当時の私は、今の自分のように心理学の研究者や大学の先生になるということは全く考えていませんでした。それどころか、大学院や大学への進学すら考えていませんでした。なぜかという当時の私にはなりたい職業があり、その職業に就くうえでは、大学への進学は必ずしも必要がなかったためです。当時の私がなりたい職業、それは声優です。私はアニメやゲーム、特撮といったジャンルが幼いころから好きで、中学生や高校生のころは、それらに関する仕事に就きたいと思っていました。また幼いころから憧れとも呼べる声優がおり、それを目指していました。

しかしそういった目標や憧れを持っていても、成功する保証などどこにもありません。周囲の人にも目指すこと自体は否定されないまでも、それだけを目指して動くことは反対され、進学を勧められました。そうした中で、私自身もその意見に賛同し、大学へ進学することを決めました。

進学を決めた以上、大学で何を学ぶのかも決めなければなりません。その際、少なくとも4年間関わる以上、まったく興味がないようなことはしたくない、また学ぶのであれば自分が目指しているものに関わることを学びたい。そう思いました。ではそれが何だろうと考えたとき、演技や芝居をするということは他者とのコミュニケーションを通

して、自分の感情を他者や聴衆に伝えることではないかと考えました。そしてそれを扱った学問を考えた結果、心理学に至りました（加えて私自身が日々のコミュニケーションに苦手意識を持っていたことも大きな要因でした）。こうした理由から、私は大学で心理学を学ぶことを決めました。

その後、大学で心理学を学ぶ中で、その面白さや奥深さに魅せられました。また自分が知りたい、明らかにしたいと考えていたことは大学4年間だけでは取り組めないと感じ、進学し、研究者となることを決めました。同時に自分が感じる心理学の面白さや楽しさを伝えたいとも思い、心理学の教育者となることを決めました。なお、声優の方ですが、大学在学中に養成所にも通い、芝居や演技を学びましたが、興味や関心が心理学の方に向かっていきましたので、その道に進むことはありませんでした（もっとも、演技が本当に上手な人はたくさんおり、私がプロになることは極めて難しいということもわかったからです）。ですが、それ自体が無駄だったかというそうではなく、芝居や演技の勉強の中で、発声方法や発話における間の取り方、声の強弱などについて学べました。これらは現在授業や研究発表をするうえで役に立っているように思います。

さて、このように振り返ってみると、心理学という学問を学ぶことは、私にとって最初は回り道だったように思います。しかし、最初は回り道と思っていたものが、取り組んでいく中で自分にとって、とてもとても重要で大きなものになりました。さらにその道を突き進んでいったからこそ今の自分があると言えます。

この体験は、自分自身が体験したこと、やってきたことに無駄なことはないこと、仮に今この時点で回り道や遠回りなのではないかと感じることであっても、それがいつか自分にとって大きな意味を持ちうることを私に気づかせてくれました。現在、私は学生を指導する立場にありますが、学生の皆さんには、様々なことを大学時代に体験してもらいたいと思っており、またそのことを教育の中で伝えていきたいと考えています。

人間健康福祉学部 水口 啓吾ゼミ

ゼミのテーマを教えてください。

僕は心理学の中でも、教育心理学、発達心理学、臨床心理学の領域に関する研究を行っています。そのため、僕のゼミでは、人間の発達、教育、心の問題などに関するテーマに関心を持って、自分の研究へと繋げる学生さんが多いです。

しかしながら、テーマ決めの際には、僕の専門領域にこだわらず、まずは学生の皆さんが“心理学のどのような内容に関心を持っているのか”をできる限り大切にしています。ゼミの学生さんが取り組んでいる研究のキーワードとしては、虐待、発達障害、親とのコミュニケーション、大学生のアイデンティティ、反社会的行動、幼児期の英語教育、大学生の居場所感など、様々です。

僕自身、最初は教育心理学に関するテーマで研究を行っていましたが、色々なことに興味を持ってしまう浮気性な性分のため、今では臨床心理学領域にも手を付けている始末です（笑）。ゼミを引っ張る人間がこんな感じですので、ゼミの学生の皆さんにも縛りなく、好きなテーマを思う存分楽しみながら取り組んでもらいたいと思いながら、日々ゼミを行っています。

ゼミのスタイルを教えてください。

まずは、日常生活での不思議や、関心のあるニュース、自分に関する疑問などを手掛かりとして、“自分は心理学の何に関心があるのか”について考えてもらいます。そして、それらのテーマに関連する心理学文献を探していきながら、資料やパワーポイントを用いて発表をしてもらいます。自分の研究テーマが決まったら、具体的にそれを検討



するためにはどうすれば良いのかについて考えていきながら、調査や実験によって最終的に自分オリジナルの研究を完成してもらいます。

水口ゼミには2つのルールがあります。①子どもにも理解できるような発表を心掛けること、②全員必ず発言をすること、です。“自分以外の人に理解してもらうためにはどう表現すれば良いのか”、“もしも自分だったらどうするだろうか”、を常に意識しながら、ゼミに参加してもらいたいと思っています。

大切な時間と労力を使って作り上げる研究だからこそ、単なる卒業研究という位置づけで終始することなく、学生の皆さんにとって、これからの人生に役立つことができるような取り組みとなれるように、サポートをしていきたいと思っています。

ゼミの特徴を教えてください。

ゼミの特徴としては、とにかくアットホームな雰囲気です。僕自身がまだ30代前半の若造のため、良くも悪くも学生との距離感が近いです。時折、「先生と思っている？」と思ってしまうような、図々しさが出てくる時もありますが（笑）、僕自身、学生の皆さんと楽しく触れ合いながらゼミを行っています。また、学生の皆さんに教えてもらうこともたくさんあり、毎日刺激をもらっています。

僕は今年の4月に聖カタリナ大学に着任しました。そのため、水口ゼミもまだ生まれたばかりの赤ちゃんゼミです。これから、どんなゼミに育つのか、僕自身も分かりません。だからこそ、学生の皆さんと一緒に、時に厳しく、いつも楽しみながら、水口ゼミを大切に育てていきたいです。

水口啓吾ゼミは **こんなゼミ**

水口ゼミは平成30年度にできたばかりで、水口先生と学生3名、計4名の「のんびりしたゼミ」です。ゼミでは主に私たち学生の課題である卒業研究に向けた個人発表、また、その個人発表をもとに先生と生徒で「どうしたら卒業研究に活かせるか」の意見交換や相談をしています。最近では、地域の夏祭りにゼミとして出店のお手伝いをするなど、楽しく活動できました。4名という人数の少なさだからこそのまとまりや、アットホームな関係ができており、とても話しやすい環境です。

まだまだこれからなゼミだと思うので、話し合い、協力し合いながら様々なことに挑戦し、時には息抜きもしながら、水口先生のもとで学んでいきたいです。

人間社会学科3年 水沼 将悟

社会の中でどう生きていくかを考える就職活動は、学生が本当の自立に向けて成長する良い機会です。100人居れば、100通りの就職活動があり、就職課では多様な支援プログラムを実施し、学生個々の状況を踏まえたきめ細かい就職活動をサポートしています。

就職活動は大学4年生になってから準備すればいいと油断していませんか？ 就職活動では、今までチャレンジした人生経験すべてが問われます。大学1年生のときから就職活動を意識して色々なことにチャレンジしておきましょう！

それでは、お勧めの「大学生がやるべきこと」をご紹介します。

もちろん1番目は勉強です。…専攻分野の授業やゼミは、専門知識を得られるだけでなく、課題の分析と理解、討論、レポート作成などを行うことで、社会人になってから必要な能力を養えます。特にゼミは、共に学ぶ仲間同士のつながりが社会に出てから人脈として活かされることもあります。

②サークル活動…サークル活動や部活動に参加することで、大学生活はより豊かなものになるでしょう。どちらも共通の目的を持った人々の集まりであり、特技やスキルを身に付けられるとともに、趣味や価値観が通じる人々と出会えます。

③読書…読書のメリットは、短期間で質の高い情報をまとめて取り入れられることです。時間を比較的とりやすい大学時代に徹底的に本を読み、教養をインプットしましょう。その教養が社会に出たときの基礎力を構成します。お金がなくても、図書館を利用すれば、古典から新作まで幅広く読むことができます。

④資格取得…資格を取得すると、就職活動で有利なうえ、将来の仕事にも活かれます。専門職としての国家資格ももちろん必要ですが、簿記、MOSなどは大学生のうちに取得しておけば、採用担当者への強いアピールポイントになるでしょう。

⑤アルバイト…アルバイトはお金を稼ぐ以外にもメリットがあります。一つは、社会人としての常識やマナーを学べることです。店長や上司へのハウレンソウ（報告・連絡・相談）、同僚との意思疎通や助け合い、お客様や取



引先への対応など、大学の授業では教えてくれないことを、アルバイトを通して学べます。

⑥ボランティア活動…ボランティアは、環境保護や福祉施設での支援、災害地域での救護活動など、種類が多彩にあります。アルバイトとは異なり、お金を稼げるわけはありませんが、大学では出会えない人々との触れ合いや経験を通して社会勉強ができます。また、「人の役に立っている」「社会に貢献している」という充実感や達成感を味わえるでしょう。

⑦インターンシップ…就職前の学生が就業体験の目的で一定期間働くインターンシップ制度のメリットは、実際に働いて仕事や職種、会社の特徴をつかむことで、就職活動における会社選びがスムーズに進み、就職後のミスマッチが少なくなることです。

それでは、大学側がやるべきことは何でしょうか。学生の質を上げるために教育の品質を向上させることです。全学的なキャリア教育の位置付けや、教育プログラムの整備、運営組織・体制の整備、教職員の意識啓発やスキルアップも重要です。

キャリア教育の目的は、自分の将来をデザインする能力、情報を収集する能力、意思決定を行う能力、人間関係を構築する能力という「生きる力」を身に付けることにあります。そこで、入学から卒業までを見通して、自らの社会人・職業人としての将来像を描かせ、その実現に必要な学習や活動が行える環境を整えるとともに、在学期間中、正課内外における教育活動やその達成度を記録する「学生カルテ」を導入し、目標への達成度を確認しながら次の行動設計に反映させるキャリアデザインの自己管理等を行う取り組みが必要です。

教育方法も実社会で活かせる授業を増やし目的意識を醸成させ、グループワーク等のアクティブラーニングで実習・発表重視の授業による課題対応型学習とし、インターンシップ・企業見学等も効果的に組み合わせることで肝要です。

学生が運命の1社に出会うために情報の宝庫である就職課へ来て、落ち着いて相談しましょう。インターネットではわからない情報を生の声で伝えることができます。「変えることができるのは過去でなく他人ではなく、自分自身と未来です」まずは行動しましょう。充実した人生を歩むために自分の未来は自分で拓きましょう！



学生赤十字奉仕団

私たち学生赤十字奉仕団は、活動2年目の新しいサークルです。主に大街道の献血ルームで献血の呼びかけや、今回の豪雨災害に対して募金活動を行っています。献血活動では、部員の多くは看護学科ですが、他大学や専門学校の方と接する機会もあるため、考え方の視野が広がり多くのことを学ぶことができます。

実際、私も献血活動に携わる前までは、人助けはしたいけれど何をしたいのかわかりませんでした。しかし、献血ができなくても呼びかけることができます。そして、それが誰かの明日をつくってくれるのだと感じました。募金も現地には行けなくても、現地の人が必要なものを購入できます。献血で「LOVE in Action」という言葉をよく耳にします。まさに自分の行動で誰かを救うことができるのだと思います。

私たちは、多くの方に支えられて活動ができています。

感謝の気持ちと、誰かの助けになりたいという貢献の気持ちを持ち、今後も困っている人の役に立ちたいと思っています。そして、自ら考えて行動できるスキルをこの献血活動や募金活動で身につけ、人のために考え、行動できるようになりたいです。

看護学科

2年 村中 理紗



ご寄付のお願い 【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 / FAX 089-992-5616



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.31 No.1

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp